

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
島田市	川根地区	令和4年2月28日	
	旧川根町(川根町家山、川根町葛籠、川根町抜里、川根町笹間上、川根町笹間下、川根町笹間渡、川根町身成、川根町上河内)		

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	431.4 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	338.5 ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	101.7 ha
i うち後継者有りの農業者の耕作面積の合計	6.8 ha
ii うち後継者なしの農業者の耕作面積の合計	52.2 ha
iii うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	21.9 ha
iv うち後継者について不明(未回答者)の農業者の耕作面積の合計	20.8 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	2.7 ha
<p>(備考)</p> <p>農業者へのアンケート調査により、基盤整備による農地の集積・集約化、後継者の確保育成及び支援、経営の複合化や法人化及び機械化による経営の強化、労働力の確保、農産物価格の安定、農地の他用途利用、鳥獣被害対策、荒廃農地対策などの意向が確認された。</p>	

2 対象地区の課題

<p>当地区は市の北部に位置し、大井川の両岸に小規模な集落が点在する地区で、傾斜地茶園の多い中山間地域である。比較的経営規模が零細な農家が多く、高齢化と後継者不足が顕著で、農地の管理が困難になってきている。</p> <p>アンケート調査によると、将来の農業経営について、規模拡大及び現状維持は23%、規模縮小19%、貸付希望33%、不耕作22%となっていて、耕作意欲の低下が見られる。中心経営体は27件と少なく、引き受け希望面積は2.7haで、75歳以上の農業者で後継者無及び不明の方の農地面積74.1haを大幅に下回っている。基盤整備や新たな担い手の確保などが課題となっている。</p>
--

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>○大井川右岸地域（川根町家山、川根町葛籠、川根町抜里）</p> <p>傾斜地の中山間茶園が多いが、抜里集落辺りでは基盤整備された平坦な茶園も広がっている。茶専業農家が多く、法人や自園自製農家が川根茶のブランドを活かした煎茶を製造しているが、近年は付加価値の高い碾茶の契約栽培や有機栽培も、盛んに行われている。地区内の認定農業者や法人を中心に、農地の集積・集約化を図っていく。</p>
<p>○大井川左岸地域（川根町笹間上、川根町笹間下、川根町笹間渡、川根町身成、川根町上河内）</p> <p>山深い傾斜地の中山間茶園が多く、経営規模は零細で、野菜や椎茸なども栽培している。小規模な共同茶工場や自園自製農家が、川根茶のブランドを活かしたお茶を製造している。地区内の認定農業者や法人を中心に、農地の集積・集約化を図っていく。</p>

(参考) 中心経営体

属性	農業者【氏名・名称】	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
		茶、自然薯、ぶどう	3.3 ha	茶、自然薯、ぶどう	3.3 ha	川根・初倉
		茶、自然薯	2.5 ha	茶、自然薯	2.5 ha	川根
		茶	2.4 ha	茶	2.4 ha	川根・五和
		茶、自然薯	2.2 ha	茶、自然薯	2.2 ha	川根
		茶	1.8 ha	茶	1.8 ha	川根
		茶	2.9 ha	茶	3.4 ha	川根
		茶	2.3 ha	茶	2.6 ha	川根
		茶	2.3 ha	茶	2.3 ha	川根
		茶	1.4 ha	茶	1.4 ha	川根・五和
		茶	0.4 ha	茶	0.4 ha	川根・初倉
		茶	1.6 ha	茶	1.6 ha	川根
		茶、水稻	1.2 ha	茶、水稻	1.6 ha	川根
		茶、コンニャク、キャベツ	1.7 ha	茶、コンニャク、キャベツ	1.7 ha	川根
		茶	7.5 ha	茶	7.5 ha	川根・島田・六合
		茶、果樹、野菜、自然薯	6.1 ha	茶、果樹、野菜、自然薯	6.1 ha	川根
		茶、野菜、こんにゃく、椎茸	5.2 ha	茶、野菜、こんにゃく、椎茸	6.2 ha	川根・島田・五和
		茶、水稻	3.2 ha	茶、水稻	3.2 ha	川根
		茶	3.2 ha	茶	3.2 ha	川根
		茶	2.7 ha	茶	2.7 ha	川根
		茶(法人)	0.4 ha	茶(法人)	0.9 ha	川根・初倉・金谷・五和
		茶、果樹、椎茸	2.3 ha	茶、果樹、椎茸	2.3 ha	川根
		茶	2.7 ha	茶	2.7 ha	川根
		茶	2.5 ha	茶	2.5 ha	川根
		茶、水稻、野菜	3.0 ha	茶、水稻、野菜	3.0 ha	川根
		茶	0.5 ha	茶	0.5 ha	川根・島田・金谷・五和
		茶	1.6 ha	茶	1.6 ha	川根
		椎茸、茶、野菜	0.2 ha	椎茸、茶、野菜	0.2 ha	川根
計	27人		67.1 ha		69.8 ha	

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

<p>○農地の貸付け等の意向 貸付けの意向を示した農業者は135人で、農地面積は67.1haとなっている(筆毎の貸付意向は未確認)。</p>
<p>○農地中間管理機構の活用方針 ・基盤整備については、農地中間管理機構を活用した事業や経営体樹園地再編整備事業を実施していく。 ・農地の貸借については、農地バンクを活用し、担い手への集積・集約化を目指していく。</p>
<p>○基盤整備への取組方針 ・茶園基盤整備については、抜里地区で実施されており、地元の法人に集積が図られている。 ・石風呂地区でも、簡易的な基盤整備に向けて話し合いが進んでおり、他地区でも可能な適地で基盤整備を実施できるよう、地域の話し合いを進めていく。</p>
<p>○新規・特産化作物の導入方針 ・有機栽培の拡大や、茶以外の高収益作物を導入していく。 ・川根茶ブランドの再構築を図る。</p>
<p>○担い手の確保育成方針 ・新規就農者を確保するため、移住を組み合わせた農地斡旋事業を行う。 ・農業者による情報交換会や法人化の勉強会、集落の話し合いなどを開催していく。 ・地域農業の将来を踏まえた茶生産組織体制を検討していく。</p>